

LMI世界宣教会はリーベンゼラ・ミッション・インターナショナル(LMI)に加盟している日本の宣教団体です。

NYでの活動スタート 早速、受洗決心者も

ニューヨーク周辺邦人宣教・宣教師
笹川雅弘・由利子

主の御名を賛美いたします。3月6日に宗教活動家ビザ取得後、オンライン牧会を継続しつつ渡航準備を進め、4月11日に派遣式が等々力教会で執り行われました。井上義先生ご夫妻による素晴らしい賛美と、会堂・Zoom両方の参加者からそれぞれ温かいお言葉をいただき、主の恵みを豊かに分かち合うひとときが与えられました。

派遣式当日の夕刻に行われたPCR検査では無事陰性が確認され、予定通り4月12日午前に日本を発ち、NY時間の4月12日に到着いたしました。立石先生が残してくださっていた家具一式の運搬、アパートの入居手続きなど、ニューヨークめぐみ教会のメンバーたちの全面的なご協力をいただき、今、この原稿を入居したてのアパートで執筆しています。日本の皆様とNYのメンバー双方から頼もしい支えと助けをいただきながらこのミッションに携わることができる恵みをあらためて感謝しております。

NYめぐみ教会の状況ですが、今まで教会で中心的な



派遣式の朝、3人のお子さん、愛犬と記念撮影



日本同盟基督教団・等々力教会で行われた派遣式

働きをしてきたメンバーが急遽4月末に帰国することとなり、さっそく送り出す働きを務めることになりました。同時に今年開始されたオンラインミニストリーの中で受洗決心者も起こされました。あらためて「たんぼぼミニストリー」の働きの中で宣教の使命を果たしていく感覚を実感させていただいています。

3月28日に「支える会」ニュースレターを発送後、渡米までの短い期間に多くの方より励ましのコメントをいただきましたことは大きな力となりました。日本と同様NYでのコロナ禍との闘いは相変わらず継続されており、しばらく自主隔離の期間となりますが、ようやく宣教地での活動が開始できる状況が与えられましたことは主のあわれみと皆様のお祈り・ご支援の賜物です。時差の関係上、深夜以外の時間帯であれば、Zoomなどを通し日本の教会で引き続きご奉仕することが可能です。牧師の休暇確保のためという理由も含め、お声をかけていただければ喜んでご奉仕させていただきます。ぜひご検討ください。

連絡先：LMJ世界宣教会 熊久保公義

電話：045-931-3312

Mail: kimikuma1126@gmail.com

HP: <https://nymissionsasakawa.wixsite.com/support>

新型コロナウイルス感染症の影響で、出発の時を待っていた宣教師たちに「神の時」が訪れ、それぞれ派遣式が行われました。

笹川宣教師夫妻の派遣式

賛美と祈りに包まれて

4月11日、笹川雅弘・由利子宣教師夫妻の派遣式が派遣教会である日本同盟基督教団・等々力教会（東京都世田谷区）で行われました。ここに至るまで2年の歳月を要しました。式が進められて行く中で切に覚えさせられたことは、決して派遣の時が遅くなったのではなく、主が全てを整えてくださることを私たちが知るために必要な時であり、主の最善の時に遣わされて行くことでした。

コロナウイルス感染拡大防止のため、支援してくださっている兄弟姉妹をお招きすることは適いませんでしたが、笹川宣教師夫妻を召してくださった主の御臨在がその中心にありました。また等々力教会の井上義牧師夫妻、笹川宣教師を支える会の高橋みづほ伝道師、役員の姉妹2名、場所は違っても心一つ、信仰一つにしてZOOMを用いて参加された神の家族の存在がありました。

司式は井上牧師、奏楽は直子夫人で進められました。式次第は配付されませんでした。派遣式のために祈り、

準備された賛美と、その合間に語られることばの一つ一つは、私たちの心を一步一步、世界宣教へと向けて行きました。笹川宣教師夫妻による賛美や宣教への思いを語られるその姿から、ご夫妻が一致して賛美をささげつつ、主の福音を宣べ伝える姿を想像しました。主がその働きを祝福してくださり、私たちの口を賛美で満たしてくださいことに期待しながら祈り支える者でありたいと願います。（田辺証夫）



派遣式出席者・ZOOM出席者と一緒に撮影する笹川宣教師夫妻（前列）

近藤医療宣教師の派遣式

「神が100%守ってくださる」

近藤恵医療宣教師の第5期派遣式が2月14日、派遣教会の自治医大前キリスト教会（栃木県下野市）で行われました。新型コロナウイルスの影響で教会に出席したのは、教会役員と支える会のメンバー計約10人に限定し、LMI世界宣教会理事会や支援教会からはビデオ会議システムZOOMを通しての出席となりました。

派遣先のバングラデシュのジョイランクーラ・クリスチャン・ホスピタルの院長Dr. タボシュが脳出血で倒れ、病院から「帰ってきてほしい」との要請を受けての急展開。出国のタイミングを祈り求めていた近藤宣教師は「これが神様からのゴーサイン」と信じ、2月17日、バングラデシュに入国しました。

派遣式は、派遣教会の小倉泉師が司式し、LMI世界宣教会理事長の田辺証夫師が奨励メッセージを、ZOOMを通して行いました。田辺師はルカの福音書8章の「長血をわずらっていた女の人」からみことばをひもとき、「近藤先生が遣わされるバングラデシュは、この女性のように、まさに希望を失いかけている人たちが数え切れないほどいる国。……どうか主が近藤先生のうちに豊かに住んでくださって、希望を失いかけている人たちに本当の希望、本当のいのちを指し示す働きをなさせてくださいますように」と語りました。

近藤宣教師からは「今は神様の時。ワクチンは100%守ってくれないけれど、神様は100%守ってくださる」と証しがあり、近藤宣教師の愛唱賛美「御名をほめたたえる歌声より」を共に賛美し、接手の祈りをして送り出しました。（小堀日出春）



支える会のメンバーら接手の祈りを受ける近藤医療宣教師

Bangladesh Report

バングラデシュ医療宣教師
近藤 恵

みなさまお元気ですか？私は2月16日バングラデシュに戻りました。こちらは今、昼間は30度を超えますが、朝晩はいつもと違って涼しく、過ごしやすいです。気候変動の影響があるのでしょうか。

バングラデシュに戻りました

2月の初旬にジョイランクーラから、院長先生のドクター・タポシュが1月に脳出血で倒れたこと、回復途中にあるけれど、ドクター・ルーシーの負担が大きく、帰ってきてほしいという連絡が入りました。これは、神様からのゴーサインととらえ、すぐに出発の準備にとりかかりました。

もう少し待てば、ワクチンを接種してから行けるかもしれないとも思ったのですが、今が神様の時なのだと、ワクチンは100%守ってくれないけれど、神様は100%守ってくださると信じて2月16日成田を発ちました。

付き添いさんをしています

第4期の終わりの方で、分娩室でひとり放置されている産婦さんの状況を見、分娩の改善が必要なことを確信しました。産科医でも助産師でもない私に何が出来るだろうかと考えていたのですが、産婦さんの付き添いさんなら出来るかもしれないと思って、戻ってきました。

外科医としての仕事の合間に分娩室に顔を出しているのですが、まだ10人弱ですが、産婦さんと断続的にでも一緒にいることができました。全くの素人だった私も、少し様子がわかってきました。何

【近藤恵医療宣教師を支える会】

〒329-0403 栃木県下野市医大前3-7-1

☎0285-44-7564 自治医大前キリスト教会気付

e-mail:meg0_02007@yahoo.co.jp

【現地】 Garo Baptist Convention
Christian Health Project
Joyramkura.p.o. Haluaghat 2260
Mymensingh, BANGLADESH



ジョイランクーラ・クリスチャン・ホスピタルが、コロナによるロックダウンの中でも患者を受け入れていることをニュースにした現地の新聞記事

をしているかということ、声をかけ、腰をさすり、一緒に歩いています。最初は面白いと思っていたのですが、最近は、難しさも覚えます。一番は、自分で産もうという意識に乏しいこと。痛みが強くなって1時間もすると、もう「帝王切開にする！」と叫び始める人がたくさんいます。また家族も「辛い思いをさせたくないから帝王切開にして」という人たちがかなりいます。本人、家族の意志をくみ取りながら、慎重にやっていく必要があるなと思っています。

ドクター・タポシュの今

ドクター・タポシュは体の方は驚異的に回復しています。今日も白衣を着て、病院に来ていました。働くというよりは、試運転というところでしょうか？簡単なことばは大丈夫なのですが、少し観念的になると理解できないようです。最初は奥さんのドクター・ルーシーの名前も忘れていました。それでドクター・タポシュが、「何て呼んだらいい？」と聞いたので、ドクター・ルーシーが「ルーシーって呼んで」と言ったのだそうです。以前は、ドクター・タポシュの携帯には絶え間なく患者さんから電話がかかっていた。今も時々かかってくるようで、私からするとストレスで血圧が上がりそうだからやめた方が（最終面に）

【祈りの課題】

- ドクター・タポシュの回復のために。
- ドクター・ルーシーが強められるように。
- コロナから守られるように。
- 母と姉の救いのために。

(3面より続く) いいんじゃないかと思うのですが、ドクター・ルーシーは「練習になるから」と言っていました。ドクター・ルーシーは病院全体の責任も持っているし、外来も病棟も手術の患者さんも多いのですが、よくドクター・タポシュのお世話をしています。朝ごはんを食べさせ、リハビリをしながら病院に来るので、1時間は来るのが遅くなり10

時頃になっています。(まあ、これはバングラデシュの病院では、仕事が始まる普通の時間のようです。) 私だったら、ストレスで疲弊するだろうと思うのですが、ドクター・ルーシーは、ユーモアを交えつつ、淡々とこなしています。私たちはドクター・タポシュがまた仕事ができるようになるといいなあと思っています。



兵藤 陽子
LMI世界宣教会協力理事

主が備えてくださる



私が宣教師の召しを受けたのは、18歳の時でした。受洗日に、生涯の指針となるみ言葉をくださいと祈りました。与えられたのは「わたしはあなたを立てて異邦人の光とした。あなたが地の果てまでも救いをもたらすためである。」という言葉でした。それから単純に宣教師として召されているのかと考えるようになりました。自分を見ると資質がなく、確信が全く持てませんでした。

道が開かれたのは10年後です。でも、モンゴルに行くこと決まった後も、出発までの支援体制作りなどすべてが手探り状態でした。確信が持てない間もつらかったのですが、決まった後の準備も大変でした。宣教地に行っても異文化適応、日本と連絡がとれない、現地の教会の課題等困難がありました。

宣教師を引退して帰国してからは、思ってもみなかった牧師の働きに携わることになりました。大変でないことがない。なぜかと言えば、問題なのは自分の弱さだからです。でも、先日のイースターで開いたみ言葉に慰められました。女性たちが、イエス様に香料を塗りに行く道すがら、だれがあの大きな石を転がしてくれるかと心配していただくりです。自分の力では決してどかすことのできない非常に大きなものでしたが、それがすでに転がしてありました。必要な事が、あらかじめ備えられていたのです。それは、先が見えなくとも、一歩踏み出してみるときに経験することではないかと思えます。その経験を積み重ねていくことで、神様は信頼に足るお方だという確信が強くなっていくのだと思えます。あんなに心配したけれど、大丈夫だったんじゃないか。道が開かれたんじゃないか。と。

聖書には、この方に信頼して、生涯を預けて大丈夫なのだという励ましが溢れています。自分の感じ方が昔と変わっていないことを見るにつけ、これからも自分の弱さとの戦いなのだと思いますが、それでも何とか主についていきたいと願うのです。(茅ヶ崎聖契キリスト教会牧師・元モンゴル宣教師)

理事会便り

★近藤恵医療宣教師は2月14日、自治医大前キリスト教会で行われた派遣式後、17日、バングラデシュに到着されました。健康も守られ、お働きの上に主の祝福がありますようにお祈りください。同刻の祈りにもご参加ください。

★笹川雅弘・由利子宣教師夫妻

は無事にビザを取得し、4月11日に派遣教会の日本同盟基督教団・等々力教会で派遣式が行われ、翌日アメリカへと旅立たれました。混乱の中にあるアメリカですが、主の守りとお働きの祝福のためにお祈りください。また続けてのご支援をお願い致します。

★各宣教師を送り出したそれぞれの支える会、また理事会の働きが、宣教師を正しくサポート

するために用いられますように。

【祈り】主がみことばのとおり私たちの宣教の働きを祝福して下さいますように。「しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちがキリストによる凱旋の行列に加え、私たちを通してキリストを知る知識の香りを、いたるところで放ってくださいませ。」(Ⅱコリント2:14) (田辺証夫・LMI世界宣教会理事長)

LMI世界宣教会

(LM-J 本部& ☎226-0003 横浜市緑区鴨居2-29-4(かもし聖書教会気付) ☎&Fax 045-931-3312)
会計事務局) (会計)e-mail: LMJ@outlook.jp

→ 献金送金の際、「ゆうちょ銀行通帳」から電信振替(ATM)をご利用されると振替用紙より割安で送金できます。

(LMI)http://www.liebezell.org/(ドイツ語),www.liebenzell.ca/(英語) 郵便振替 00110-1-91993「LMI世界宣教会」